

相談援助職をめぐる就職意志と自己効力感に影響を及ぼす要因：相談援助実習における有効なサポートの提案を目指して

小松, 智子

<https://doi.org/10.15017/1931674>

出版情報：九州大学, 2017, 博士（人間環境学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏名	小松 智子			
論文名	相談援助職をめぐる就職意志と自己効力感に影響を及ぼす要因 －相談援助実習における有効なサポートの提案を目指して－			
論文調査委員	主査	九州大学	講師	氏名 内田 若希
	副査	九州大学	教授	氏名 西村 秀樹
	副査	九州大学	教授	氏名 杉山 佳生
	副査	熊本学園大学	教授	氏名 橋本 公雄

論文審査の結果の要旨

本論文は、相談援助職をめぐる就職意志および自己効力感に影響を及ぼす要因を検討し、相談援助実習教育に必要な教育的サポートのあり方についての提言を目指したものである。研究1では、相談援助職をめぐる就職意志に影響を及ぼす要因を、実習に至るまでの個人の心理・社会的背景および実習での体験内容に焦点を当てて探索的に検討した。この結果、相談援助職をめぐる就職意志に影響を及ぼす要因として、進学に対する動機、実習意欲、実習での体験、および自己成長の4つを生成した。また、就職意志が高まったタイプおよび高まらなかったタイプそれぞれにおいて、生成された要因との関係性を概念モデルに整理した。つぎに研究2では、相談援助実習で体験した出来事を、相談援助職をめぐる自己効力感に影響を及ぼす情報源として位置づけ、自己効力感の向上・低下に及ぼす影響を検討した。Bandura (1977) が示した4つの情報源（遂行行動の達成、生理的・感情的状況、言語的説得、代理的体験）を概念的カテゴリーとして使用して分析を行うとともに、新たな情報源として、内的報酬を生成した。そして、内的報酬、言語的説得、代理的体験の3つの情報源に対する認、知の仕方が、遂行行動の達成および生理的・感情的状況の認知に影響を及ぼし、相談援助職をめぐる自己効力感が向上もしくは低下する過程を概念モデルで提示した以上のように、相談援助職をめぐる就職意志や自己効力感の変容過程を概念モデルとして提示するとともに、それらを踏まえて、相談援助実習教育に必要な教育的サポートに向けた複数の視座を提案することができた。本論文で得られた一連の成果は、相談援助実習教育ならびに相談援助職をめぐる自己効力感に関する研究において、新たな知見を提示するものであるといえる。

よって、本論文は博士（人間環境学）の学位に値するものと認める。